【演習１】ワークシート３（参考例）

インテーク

情報の整理
（見たこと、聴いたこと、データなど： 事実）

本人の表明している希望・解決したい課題

・現在と同じようなくらしを続けたい。

・自信がないが、５０歳までに独立したい。

・仕事を続けたい。

・プラレールや電車に乗るなどして楽しみたい。

（作成者の）おさえておきたい情報

・以前の支援は本人の「卒業したい」という希望から一旦終結している。
・(40代の男性として日常生活を営む力はあるが、)自分で家事をするのは大変と思っている。
・書類や事務手続きは手助けが必要と感じている。
・新しい環境に慣れるのに時間がかかる。

・Suica決済できるものはしており、オートチャージにしている。本人は残高を管理していない。
・必要な時に必要なだけ親からもらう仕組みでやっている。
・経済的困窮の状況にない(給料＋年金、父母の年金)。

・仕事を続けたい意思がある。
・リストラに遭うまで30年近く同じ仕事を続けていた。
・職場の仲間を作ることができ、前職の仲間との交流もある。
・仕事帰りの寄り道はひみつ。

・転居の経験はあるが、同一市内。
・都営住宅は親が転居したら住み続けることができない。
・中学(特殊学級)の友だちや仕事関係の人など本人の交友関係はこの地域にある。
・姉夫婦は県外だが月１度は来訪する。

・父母の出身は沖縄。
・先行きの不安をことごとに口にしているが、帰る決意を口にしている。

アセスメント

理解・解釈・仮説
（作成者のとらえたかた、解釈・推測）

本人

【生物的なこと】
・自分の財産や家計を把握していないのは、経験がないためではないか（支援があれば自ら金銭管理できるのではないか）。
・特にオートチャージのSuicaを使ったり、枠組みを決めず、親に管理してもらっていた。
・新しい職場でできた仲間の影響で使うお金は増えたが、特に生活が破綻するようなリスクはないのではないか。

【心理的なこと】
・独立心やひとり暮らしをしたい気持ちはあるが、経験のなさやひとりで完遂するのが困難なことがあることが不安や自信のなさにつながっているのではないか。
・不安や自信のなさは強く、大きな環境変化がある場合、慣れるには時間をかけた丁寧な支援を要することもあるのではないか。

【社会性・対人関係の特徴】
・中学卒業以来ほぼ一貫して定職についており、仕事が本人の重要なアイデンティティになっているのではないか。

・趣味や楽しみ、自信のあることについては自分で広げる力があり、過度の関与は望んでいないのではないか。

環境

・ずっと同じ地域に住み続けてきており、今後の住まいも同じ地域で考えるのが妥当ではないか。
・姉夫婦や姪との関係は悪くなく、ある程度のサポートは依頼できるのではないか。

・父母は故郷への愛着があり、もともと帰りたかったが、本人の存在もあり、帰れなかったのではないか。

・対人関係が苦手と言っているが、慣れれば本当は人と接するのが好きなのではないか。

理解・解釈・仮説②
（専門的アセスメントや他者の解釈・推測）

・内科医師より
健康診断の結果、生活習慣病の傾向はみられるものの、治療や生活上の制限が必要な状況ではない。
ただし、ひとり暮らしをするのであれば、偏った食生活にならないよう配慮してもらいたいが、一般的な成人男性であれば誰しも追うリスク程度である。

・職業リハビリテーションセンター作業療法士より
以前の転職の際に職業評価に関わった。当時は自己肯定感が下がった状態であったが、それでも集中力や課題を完遂しようとする力があった。定型的な作業については企業で十分就労できる力がある。

・職業リハビリテーションセンターの臨床心理士より
以前の転職の際、職業評価の一環として心理検査を行った。
知能検査はWAISではなくWISCにて検査を実施。全IQは55。若干言語性・視覚優位。

支援課題
（支援が必要と作成者が思うこと）

・できる限り本人の大事にすることが継続できる「独立」に向けたイメージづくり。

・金銭や家計管理ができるようになるための支援(とそれでもなおかつ必要な支援の把握)。

・家族の安心感と納得。

プランニング

対応・方針
（作成者がやろうと思うこと）

・今度の本人の「独立」に向けたイメージづくりと本人に具体的に必要な支援の把握。
→ ひとり暮らしをしている先輩宅訪問
→ 不動産屋さんに行ってみる。
→ 親がしばらく帰省している間の様子把握。
→ グループホームの見学や体験

・本人が金銭や家計管理ができるにする支援とそれでもなおかつ必要な支援の把握。
→ 本人の財産や家計について、親も交えて話しをする。
→ 日常の暮らしに必要な収支を一緒に確かめる。
→ 相談しながら、１ヶ月自分で支出を可視化してみる。

↓

上記の関わりの結果【例示】

・ひとりくらしがしたい決意が固まった（50歳までにはひとり暮らしをするのが目標）。
・働きながら色々やるのは大変…と思っている。

・本人が使っているのは月6万円ほど。収入は総額22万円。
・生活の維持に必要なお金と自由に使えるお金など使途や現金を小分けにする支援は必要。

今回大づかみに捉えた本人像（100文字程度で要約する）

「俺は47歳。リストラに遭ってつらい思いもした。やはり男の基本は仕事だからね。ちゃんと働き続けたい。職場の仲間でプライベートも楽しめるやつもできたしね。
あと3年で50歳。いつかは独立していかなくちゃと思っていたけど、家は居心地がよくてここまできちゃった。でも、そろそろ本当に考えないと。でも、やったことないから、わかんないしこわいんだよね。一緒に考えてくれますか？」

（ちなみにお金のことは納得がいかないだけなんだよ。キレてないですよ。）